

ふるさと愛を育むことで地元で貢献できる若手人材を育成

COVER
INTERVIEW羽根田 ひとみさん 福島県桑折町
町議会議員

令和4年9月25日に投票が行われた福島県桑折町町議会議員の補欠選挙において、初出馬ながら見事当選を果たしたのが羽根田ひとみ氏だ。現在は町の発展に向けた活動に全力投球している。

約30年間にもおよぶ高校生の進路選択を支えてきた教育業界におけるキャリアがセールスポイントだと語る羽根田氏。高校現場に対する熱い思い入れはもちろん、町議会議員としての活動内容から今後の展望などまで、初めて報道の前で心情を吐露した。

— 町議会議員としての具体的な活動内容を教えてください。

昨年の9月に行われた福島県桑折町の町議会議員の補欠選挙で幸いにも当選させていただき、現在は桑折町の町議会議員として活動しています。主として町の歳入や歳出の確認、その使われ方が正当なのかといった確認作業などを行っています。また、私は町議会の総務文教常任委員会に所属し、副委員長として地元の学校教育に関連する活動にも取り組んでいます。

町議会議員の仕事は、町民のみなさんと行政側の架け橋にほかなりません。町の環境整備などといった町民のさまざまな要望を行政に伝えることで、町民の生活環境の向上を下支えしています。実際に課題解決に向けて行動に移すのは行政の職員ですが、一年度間に4回開催の定例会の中で要望をしっかりと届ける重要な役割を担っています。

— 桑折町が直面している課題を挙げてください。

日本各地の他の市町村同様、桑折町でも少子化は大きな社会的課題となっています。その同一線上で、桑折町に産婦人科の病医院が開業されていないことにも強い危機意識を抱いています。公立病院でさえ産婦人科をなくしてしまったこともあり、福島市まで行かないと受診ができない現状をなんとかしたい。

このような厳しい環境であれば、子どもを産んで育てようと思う女性が減少しても不思議ではありません

よね。医師不足も看過できない状況で、医師を目指している子どもがいたとしても、経済的な理由が要因となり断念せざるを得ないケースも珍しくありません。

— 課題の解決に向けてどのような取り組みを推進していきますか。

誰もが平等に学ぶことができる環境を提供するために、子どもの学びを支援する制度を確立させていくのが一つの目標です。学びの面から環境を整備して「子育てしやすい町」をつくり上げ、例えば他県からの移住者にも門戸を広く開いておくことができるのではないかと。人口が増えることは町のさらなる発展と活性化にも直結していきます。

この町の制度を活用して育った子どもたちが、成長して大人になった時に町に戻ってきて活躍できる人材となってもらいたいのが何よりの願いです。

また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災後に支給された国からの支援金を活用して町民が自由に使える町民プールを開設したのですが、現在は十分に活用されているとは言えない状況にあります。それ以外にも広大な敷地を擁するキャンプ場の存在なども十分に認識されているとは言いがたいようです。

今後は、町民の水泳大会や音楽フェスティバルを開催するなど、施設・設備を活用し、同時に町の活気を取り戻していきたいのです。町民のみなさまの楽しみや生きがいを見い出せたら嬉しく思います。

— 長年教育業界でご活躍されたとうかがいました。

もともと、高校の体育教師を目指して体育大学に進学しました。ところが、大学在学中に大学内で開催されるイベントの企画運営に参加したところ、その仕事がとてもおもしろくなってしまっていて。それがきっかけとなり、結局教師の道に進むことなく、結婚式の司会業や歌手活動など、イベント系の仕事に携わるようになりました。

その後、家庭の事情で一般企業への就職を模索している際に偶然「出会った」のが、高校生に対する進路情報の提供や進路イベントの開催、進学ガイダンスなどを手がけている株式会社ライセンスアカデミー（本社東京・新宿区）の求人広告でした。新鮮な驚きがありました。学生時代に教師を目指していた私にとって十分興味をそそられるものがありました。大勢の人の前で話をするのは司会業での経験を十分に活かすことができると直感したのです。自分のやりたいことが見事にマッチングしていると思い、採用試験を受けました。

— そのご経験から教育現場に何が欠けているかご指摘ください。

先生方がイキイキと働ける環境を整備することが喫緊の課題だと思います。最近では、授業の実践や進路指導だけではなく、部活動や不登校児の指導など先生方の負担が大き過ぎる印象があります。また、現状を見ていると、先生方が置かれている環境が窮屈なのではないかと感じることも少なくありません。生徒の身に何かが起こった場合に訴訟沙汰につながることもあと聞きまします。そういった意味では、責任感と緊張感で常にかんじがらめの状況



はねだ・ひとみ 日本体育大学体育学部体育学科卒業。歌手活動や結婚式の司会業などの経験を重ねた後に株式会社ライセンスアカデミー（本社東京・新宿区）入社。以後、昨夏までの通算30年間にわたり、進路選択コンサルタントとして東日本エリアの高校を中心に活動。多様な高校生の機微をしっかりとらえ、すぐれた対人折衝力およびコミュニケーション能力に裏打ちされた圧倒的なパフォーマンスと鋭い洞察力をもって若者を次のステップへと導く。人間力、に対する信頼が厚く、また評価も高い。令和4年8月同社退職。現在は、故郷である桑折町議会議員の補欠選挙にトップ当選を果たし、町の発展に貢献している。

下で先生方は頑張っているのではないのでしょうか。

— 高校生が置かれている状況をどのようにお考えになっていますか。

積極的に生徒たちがさまざまな町の行事に参加する機会を設けていただきたいと思います。地域住民との交流の場を設けるだけではなく、郷土料理や地場産の食材を使って商品開発などに取り組むことによって故郷愛が育まれるのではないのでしょうか。

また、商品開発などを通して地元企業やそこで活躍する従業員のみなさんと接点を持つことにより地元で働く豊かなイメージをつかむことができるのではないのでしょうか。その結果、若手の人材が地域に根づくことにつながるととても嬉しく思います。

— 桑折町をどのように発展させていきますか。

地域のみなさんが協力して助け合いができる町にしていけたらより住みやすい町にできるのかもしれない。私自身はシングルマザー

— として3人の子どもを育て上げました。そのため、子どもが幼い頃は近所の知人に助けをもらいながら子育てをした経験があります。助け合いができる環境をつくりあげることが子育てのしやすい環境につながり、町の評判にも必ずつながるはずですよ。

— 全国の高校生にメッセージをお願いします。

人は成長を重ねるにつれて、「成長したい欲」と「貢献したい欲」の二つの欲が出てくるのではないかとというのが私の持論です。十代を生きる高校生のほとんどの人は、おそらく成長したい欲にあふれている時期なのだと思います。最終的には、しっかりと社会に貢献できる人になれるような力をつけられるとより良いのかもしれません。

また、自分が住んでいる地元に興味を抱いて故郷愛を持つことも必要です。故郷を愛して故郷に貢献してください。故郷のことを知ることが、自分自身を見つめ直す良い機会にもなることでしょう。

